

品質保証

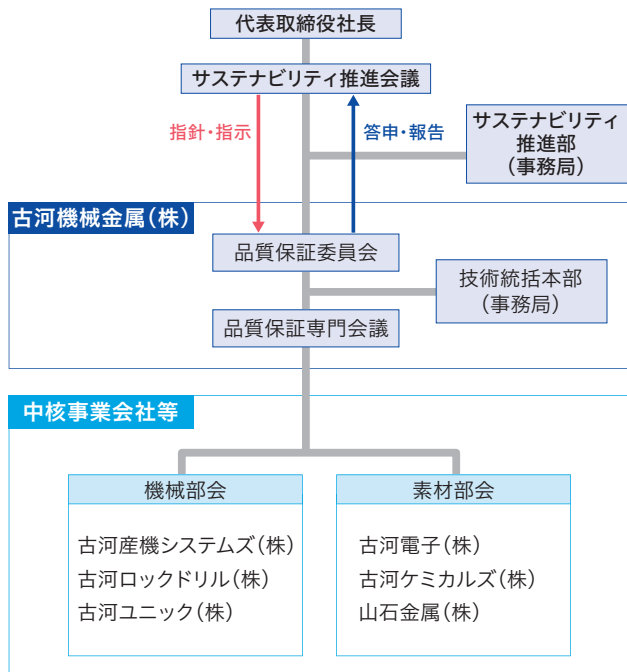
方針・戦略

古河機械金属グループは、「品質保証基本方針」、「品質保証行動指針」に基づき、製品およびサービスの品質向上に継続的に取り組んでいます。信頼性の高いモノづくりを通じてお客さまとの信頼関係を築き、持続可能な成長と社会への貢献を目指しています。

ガバナンス・体制

当社グループにおける品質保証に関する重要事項の総合審議を行う機関として、古河機械金属(株)に「品質保証委員会」を設置しています。また、技術統括本部が当社グループの品質保証体制を管理し、品質保証および製品安全に関する活動を推進しています。各組織が連携を図りながら、当社グループ一丸となって、お客さまの信頼と満足が得られるモノづくりおよびサービスの提供に努めています。

● 品質保証マネジメント体制図



品質保証委員会

中核事業会社の生産部門のトップが出席する「品質保証委員会」は、中核事業会社の品質保証責任者を集めた「品質保証専門会議」および専門会議の構成員が機械系・素材系に分かれて活動する部会により構成されています。年度ごとに定めた重点課題の達成に向け、各事業所におけるクレーム分析方法や削減の取り組みについての情報共有や、手法の水平展開を図りながら、製造、品質保証、製品安全に関する法令の遵守、およびお客さまが安全かつ安心して使用できる製品づくりを推進しています。また、製品安全は品質保証に含まれるという考えの下、リスクアセスメントの実施など製品安全レベルの向上のための活動も継続して推進しています。

リスク管理

機械部会の活動報告

機械部会は、機械系の中核事業会社3社間で情報共有を行い、顧客要求事項を満たした製品の提供およびクレーム削減に向けた統括的な活動を推進しています。各社の製品は、同じ機械構造物でありながら多種多様です。その多様性を製品に反映するために、情報を共有するとともに、各社に最適な品質保証システムの構築や効果的・効率的なプロセスの改善につなげるために、全社のかつ継続的な活動を実施しています。

機械3社の重点的に改善すべき共通テーマの改善に向けた取り組みを定めた「機械事業会社における品質ロードマップ(2023~2025年度)」を2022年度に策定し、2023年度から運用しています。機械3社と技術統括本部が品質ロードマップの各テーマを分担し、情報やシステムの相互の照査・相乗的な運用により、全社的な品質のスパイラルアップを図っています。ロードマップの最終年度となる2025年度は、2023年度からの2年間の活動を評価したうえで、優先順位や状況の変化を踏まえ、目標を再設定しました。継続して取り組むテーマと、新たに設定した「設計検証のレベルアップ」や「工程内不具合の削減」などの目標達成に向けたアクションを実行していきます。

また、人手不足、製品の複雑化といった制約下において継続的な品質改善を実現するためには、モノづくり現場におけるデジタル技術の活用は欠かせません。品質に関わるデータを妥当性・効率性・利便性に配慮して収集・統合することは、顧客ニーズへの対応、ナレッジの伝承、プロセスへのデータ活用に大きく寄与すると考えています。品質ロードマップと並行してデジタル技術の活用を推進することで、より確実な品質保証を目指しています。

素材部会の活動報告

電子機器などに幅広く使用される素材を製品としている事業会社で構成される素材部会は、お客さま重視の考えに基づき、「品質クレームゼロ」を目標に掲げ、海外調達品を含めた品質保証体制の改善に取り組んでいます。

当部会では、素材系事業会社の活動内容を共有することで、素材事業全体の品質保証レベルの底上げを図っています。工程内不良の削減を共通課題として取り上げており、各社における不具合に関して、真因の追究過程や再発防止対策とその検証結果に至るまでの情報を交換し、各社における活動の参考としています。

また、各社におけるリスクアセスメントとして、SDS^{*1}などを活用しリスク情報を提供しているほか、不良品の流出を大きなリスクと捉え、変更点管理を重視し、信頼性の高い設計および検査の自動化の推進を通じ、不良品の流出防止を図っています。

2024年度は2023年度に引き続き、FMEA^{*2}の導入・手法改善に向けた活動として、作成したFMEAについてのグループ討議や、最新動向の情報共有、各所における教育などを実施しました。2025年度も「品質クレームゼロ」を目標に、FMEAの活用

に向けた取り組みを通して、信頼性の高い設計、不良品の流出防止、海外調達品を含めた品質保証体制の改善を行い、素材部会各社の更なるレベルアップを図る活動を継続していきます。

※1 SDS(Safety Data Sheet)：安全データシート

※2 FMEA(Failure Mode and Effects Analysis)：設計や工程の計画段階で、品質問題の原因を事前に予測して問題を防止する体系的な分析方法

指標・目標

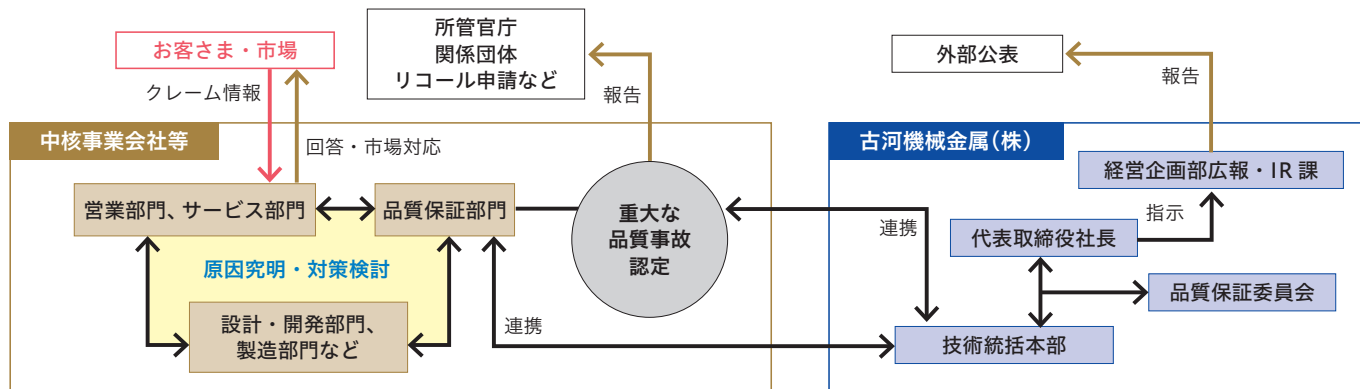
2024年度の目標：

- ・品質保証方針と行動指針の浸透(全社)
- ・品質保証体制の強化(機械系事業会社・素材系事業会社)
- ・品質保証プロセスの継続的改善
- ・品質保証改善状況の定期的な確認

2024年度の実績：

- ・品質ロードマップに沿った活動を継続実施(機械系事業会社)
- ・品質クレーム費用 対前年度比減(機械系事業会社)
- ・FMEA手法の情報共有や、既存活動の改善により、素材事業の品質レベルを底上げ(素材系事業会社)
- ・全役職員に向けた品質保証啓発資料を年4回配信(全社)

● クレーム発生時の対応フロー



ISO9001 認証取得状況

当社グループにおけるISO9001認証の取得状況は下表のとおりです。

会社名	取得日	認証取得機関
古河ユニック(株)	1997年 6月 6日	JQA((一社)日本品質保証機構)
古河ロックドリル(株)	1997年10月17日	TÜV(テュフラインランドジャパン(株))
古河電子(株)	1998年12月 4日	JQA((一社)日本品質保証機構)
古河産機システムズ(株)	1999年 6月22日	ClassNK((一財)日本海事協会)
山石金属(株)	2000年11月28日	ビューローベリタスジャパン(株)
古河ケミカルズ(株)	2003年 7月24日	JICQA(日本検査キューエイ(株))
FURUKAWA UNIC(THAILAND)CO., LTD.	2009年 5月14日	Perry Johnson Registrars, Inc.
泰安古河随車起重機有限公司	2010年11月 8日	Shanghai Audit Center of Quality System
FD COIL PHILIPPINES, INC.	2021年 3月24日	United Registrar of systems Ltd.

取り組み

品質保証を支える人材育成

各事業部門においては、多様な製品群に合わせて必要な品質教育活動を実施しています。加えて、技術統括本部においても、当社グループ全役職員を対象とした品質保証に関する啓発資料を配信しています。品質保証の基礎事項の解説や、グループ各社における品質保証活動の事例紹介など、品質について考えるきっかけを増やすことで、「品質保証活動は品質保証部門のみの取り組みではなく、全員が取り組む活動である」という意識を醸成することに努めています。資料配信と合わせてアンケートを実施し、各業務における品質保証に関する課題や要望などを抽出することで、今後の教育内容や、各事業部門における品質保証体制の強化活動に活用しています。

クレーム発生時の対応

クレームが発生した場合は、事業会社の品質保証部門が中心となって直ちに事実確認を行い、原因分析と検証を行います。特に重大な品質事故と認められる場合には、法令に基づいて所管官庁に報告し、ウェブサイトなどを通じてお客さまに情報を開示するとともに、速やかに経営層に状況を報告し、当社グループ一体となって迅速かつ適切な措置を講じる体制を整えています。